

言語文化研究科 指導計画

1. 研究科概要	<p>修士課程</p> <p>【言語文化コース】</p> <p>本コースでは、1) 多様な文化を理解し、日本語・日本文化と日本語教授法に関する高度な専門知識を有した日本語・日本語教育の専門家、2) 異文化コミュニケーション及び比較文化の視点から研究・教育を行うための知見を有し、多文化共生・異文化交流の現場に資する能力を備えた異文化コミュニケーションの専門家を育成します。それに加え、中国語中級レベル以上の院生や中国人留学生は高度な職業人に必要な日中通訳・翻訳力を身につけることもできます。</p> <p>【ビジネス日本語コース】</p> <p>本コースは主として留学生を対象とし、高度な日本語ビジネス運用能力を習得できるカリキュラムを用意し、日本語を武器にしてグローバル社会で活躍できる職業人を育成します。</p> <p>グローバル化した社会においては、日本語による高度なビジネス・コミュニケーション能力を持ち、国際間の架け橋となる人材が必要とされています。本コースでは、高度な日本語ビジネス運用能力と問題解決能力、異文化調整力を修得できるカリキュラムで、日本語を使ってグローバル社会で活躍できる職業人を育成します。</p> <p>本コースで取得できる学位は「修士（日本語）」です。日本語科目、ビジネス科目、インターンシップ、特定課題研究を中心に、実践力と研究力を身に付けます。BJT ビジネス日本語能力テストも活用しています。</p> <p>博士後期課程</p> <p>【言語文化専攻 博士後期課程】</p> <p>グローバル化の進展する現代社会においては、国を越えた交流が活発化し、物質と情報の出入が激しさを増しています。こうした世界的事象が継起する中、多文化共生や異文化理解の思想及び教育は一層重要性を増していると同時に、自国の文化や言語の振興に努め、それを世界に発信していくことが求められています。このように異文化を背景に持つ人々とのコミュニケーションの重要性がますます高まっている現状をふまえ、博士後期課程においては、異文化コミュニケーション研究を基盤にした学際的知識を持つ研究者の育成を行います。また、本学はこれまで日本語教員養成やビジネス日本語に関する教育研究を行ってきた実績があります。日本語教育学に関する高い研究能力を有するとともに、これからの時代に即した日本語教育の理論や方法を身に付けた研究者の育成を行います。</p>
2. 取得可能学位	<p>修士（異文化コミュニケーション学） Master of Arts in Intercultural Communication</p> <p>修士（日本語教育学） Master of Arts in Japanese Language Education</p> <p>修士（日本語） Master of Arts in Japanese Studies</p> <p>博士（文学） Doctor of Arts in Literature</p>

3-1 : 指導計画（修士課程）

審査種別：		修士論文
1年次	4月（入学）	年次の初めに指導教員（主査）を決定する。原則として言語文化研究科の専任教員が主査として、主たる指導教員になる。
	4月中旬 ～5月上旬	指導教員・題目届の提出（MUSCAT 通知） 学生→指導教員へ提出
	9月～11月	修士論文（特定課題研究演習）中間報告会へ出席
	11月～2月中旬	修士論文の作成に資するレポート作成方法などの指導
	～2月下旬	修士論文公聴会への出席
	3月	指導教員のもとで個別研究指導
	<p>入学時の志望に従って指導教員が決められます。原則として言語文化研究科の専任教員が主査として、主たる指導教員になります。指示された所定の期日（5月初旬）までに論文計画書を作成して、指導教員を通じて学部事務課に提出してください。</p> <p>1年生は必修科目のほかにいくつかの選択科目を履修しますが、指導教員の授業は必ず履修してください。指導教員と密接に連絡をとりながら、研究の方針を設定してください。必要ならば他の教員と連絡をとって助言を受けることも可能です。</p> <p>研究テーマと指導教員は、入学時の志望によって入学直後に設定されることとなりますが、入学後、カリキュラムに沿っていくつかの授業を履修する過程で、研究テーマの変更を検討する場合もあると思われます。その場合は早めに指導教員と相談をして、テーマの変更を検討してください。テーマによっては指導教員の変更が必要な場合もあると思われますが、その場合は、指導教員の指示に従ってください。</p> <p>なお、修士論文作成に取り組んでいる2年生のプレゼンテーションの機会があります。翌年は自分たちが発表することになりますので、2年生の発表をよく聞き、質問などもして、翌年の発表のための参考としてください。</p>	
2年次	4月～	・「修士論文演習」による研究指導（通年） ・修士論文の執筆・個別指導（通年）
	4月中旬 ～5月上旬	・指導教員・題目届の提出（MUSCAT 通知） 学生→指導教員へ提出
	9月～11月	修士論文 中間発表会
	11月	様式、論文審査願の確認（MUSCAT 通知）
		主査・副査の決定（研究科委員会）
	1月上旬	修士論文の提出
	1月下旬～	・修士論文の審査 ・最終試験（口頭試問・公開）
	3月	修了判定（研究科委員会）
3月（修了式）	学位記交付	
<p>前年に修士論文演習以外の単位は修得できているはずですので、2年次は修士論文の作成に集中してください。学年の始めに再度、論文計画書を提出してもらいます。指導教員の指示に従って、修士論文演習の時間を設定し、指導教員の指導を受けながら、主体的に研究を深め論文作成に取り</p>		

組んでください。

完成した論文を提出（1月中旬）して口頭試問（1月下旬）を受けた上で、公聴会という貴重な発表の場があります。指導教員や修士の1年生、2年生だけでなく、オープンにされた一般の聴衆に対して、自分の研究の内容をわかりやすく発表してください。自分の研究テーマの内容と、そのことの意味や、研究者としてのモチベーションなどを的確に述べる必要があります。（服装や態度、話し方などについても注意を払って下さい）。

公聴会では、必要に応じて資料を作成して聴衆に配布してください。ただし発表においては、用意した資料やノートを棒読みするのではなく、資料を補助的に用いながら、聴衆に向けて主体的、積極的に語りかけるということが必要です。論理的であることは勿論ですが、聴衆の興味を得るためのわかりやすさと、研究者の情熱の提示といったことについても、十分に検討してください。

論理的にかつ分かりやすく口頭発表するというのは、研究者にとっても、社会人にとっても、重要な能力です。その発表能力を鍛えるための貴重な経験ですので、論文執筆と並行して、公聴会でも成果を発揮できるように十分な努力をしてください。

3-2 : 指導計画（博士後期課程）

審査種別：博士論文		
1, 2 年次	4 月（入学）	指導教員の確認（原則、希望する指導教員への出願前の連絡をもとに、面接の上、指導教員を決定）以後、指導教員による研究計画書に対する指導を行う
	4 月中旬 ～5 月上旬	指導教員・研究課題及び研究計画書の提出（MUSCAT 通知） 学生→指導教員へ提出
	9 月	中間発表
	9 月～2 月	博士論文の作成に資するレポート作成方法などの指導
	～2 月下旬	博士論文公聴会への出席（2, 3 年生発表の公聴）
3 年次	1 年次 4 月から 5 月初旬：研究の内容に基づき、指導教員及び必要な場合には副指導教員を決定する。 5 月末まで：大学院生は指導教員との話し合いを行い合意のもと、修業年限内で論文作成が可能となるよう「研究計画書」を作成し、5 月末までに提出する。指導教員は入学当初から年限内に論文作成が可能となるように指導を行う。研究計画書には、論文作成に至る系統かつ具体的な計画を記載する。	
	2 年次 2 月：研究科において研究報告を行い、進捗状況を確認する。	
	4 月中旬 ～5 月上旬	博士論文提出予定の届出（MUSCAT 通知）
	8 月	・博士論文提出案内 ・様式・提出日時等（MUSCAT 通知）
	10 月	・博士論文の提出 ・主査・副査の決定（研究科委員会）
	12 月	博士論文の最終試験
	～2 月下旬	公聴会
	3 月	修了判定（研究科委員会）
3 月（修了式）	学位記交付	
4 月から 5 月初旬： 2 年次までの学位論文指導の成果にもとづき、3 年次の授業履修開始までに指導教員との協議を経て、計画書の確認と見直し等を行う。		